

令和6年度
Kokoro College Japan
学校自己評価結果報告書

令和7年4月1日

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン
(平成25年) 準拠

1. 学校の教育目標 令和6年度

1 岩永学園グループビジョン

「地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる」

2 学園ビジョン実現に向けたテーマ

地域社会から必要とされる組織であり続ける。
地域社会から必要とされる人材を提供する。

3 基本方針

- (1) 岩永学園グループの組織体として秩序ある学校運営体制を確立する。
- (2) 留学生の日本語教育向上のため講師研修及び業務のスリム化を図る。
- (3) 安定した学校経営のため、重点化を図り全職員が協働して課題解決を図る。

4 学校経営スローガン

「心をこめて、心をつなぎ、心を育む教育を！」
～One Team for Happiness in Mind～

5 重点目標

- (1) 安心・安全な教育環境の構築
- (2) 日本社会に適応した生活習慣の確立
- (3) 礼節を重んじ、他者を尊ぶ人格の形成
- (4) 地域社会への貢献と地域住民との交流
- (5) JLPT合格率50%、4技能(RWLS)の育成

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1	学校の理念は、学生便覧等にも掲載され明確である。「等しく可能性を信じ」、個々人の日本語能力を育み、「誠実、気力、知恵と行動力」を備え、日本社会に順応し、日本社会のみならず国際人として「社会に貢献」する人材の育成を目指している。
・学校における日本語教育の特色は何か。	4	3	2	1	日本語教育の専門的な経験を積んだ専任教員を中心に、複数の講師陣による授業を行っている。授業での学びを将来の医療・介護施設で活かせるように、課外時間に、現場での日本語でのコミュニケーションを実践する場を与えている。現場と連携し、学校での学びを応用し実践できる教育を目指している。
・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4	3	2	1	今後さらに進行する少子高齢化に付随する労働力不足に備え、特に、介護施設、医療機関の場で利用者やスタッフとしっかりとコミュニケーションをとり、活躍できる人材の育成を目指し、社会のニーズに見合った学校経営に努めている。
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	4	3	2	1	HPでの情報公開等を通して、海外の学生にアピールする教育理念・目標、学校の特色などを広く発信し、留学生のニーズに見合った教育内容や環境作りに努めていく。また、留学生担当者会議などでの情報交換を推進していく。
・日本語科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する社会のニーズに向けて方向づけられているか。	4	3	2	1	卒業までに、JLPTのN4以上の取得を目標に、日常生活の中で日本語で他者とのコミュニケーションができ、日本社会の中で活躍できる有用な人材の育成を目指したシラバスに対応している。学生に応じて総合学習の内容も改善している。卒業生が将来的な業界のニーズにも応えられるように日本語能力の4技能に加えやりとりや発話の能力も高めていきたい。

①課題

新体制2年目になり、10月より学生数も104人となった。少人数の職員で、ONE TEAMとして、一致協力しながら日々授業や学生のニーズに応じるべく全力で対応している。教職員全員が学園グループ及び学校の社会的な意義を十分に理解し、社会が求める人材の育成を使命とし、より一層努力していきたい。

②今後の改善方策

社会のニーズに応じて定員数を増加し、教室のリフォームなど、受け入れ体制(ハード面)を強化・改善してきた。同時に、不足している講師陣の確保と学園グループの教職員研修会、留学生担当者会議、その他の研修等に参加することで、教職員の質(ソフト面)の向上を図る。

③特記事項

特になし

1. 学校の教育目標 令和6年度

- 1 岩永学園グループビジョン
「地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる」
- 2 学園ビジョン実現に向けたテーマ
地域社会から必要とされる組織であり続ける。
地域社会から必要とされる人材を提供する。
- 3 学校経営スローガン
「心をこめて、心をつなぎ、心を育む教育を！」
- 4 重点教育目標
 - (1) 安心・安全な教育環境の構築
 - (2) 日本社会に適応した生活習慣の確立
 - (3) 礼節を重んじ、他者を尊ぶ人格の形成
 - (4) 地域社会への貢献と地域住民との交流
 - (5) JLPT合格率50%、4技能(RWLS)の育成

2. 令和6年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 適切な学習環境の整備(定員106名体制への対応)
- (2) 清潔な生活環境と自主・自律のルール作り
- (3) 「挨拶」「学習」「清掃」の凡事徹底
- (4) 学習活動と実社会体験からの学びの連携
- (5) 地域清掃活動や文化活動への積極的な参加
- (6) JLPT合格率50%、STEPを踏んだN3・N2の挑戦と取得
- (7) 授業・進路指導の充実(教職員のスキルアップ)と定期的な個別面談
- (8) 校納金の計画的な徴収(修了・卒業認定)
- (9) 関係各校、機関、施設等との連携
- (10) 日本文化の理解と社会規範への順応

3. 評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1		
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4 (3) 2 1		岩永学園グループの「地域の医療・福祉を包括的に支援できる教育機関として成長する」という運営方針に基づいて、本校日本語科としての運営方針を策定し、地域の介護福祉施設等と連携し、日本社会に貢献できる人材の育成を目指している。
・運営方針に沿った指導計画が策定されているか。	4 (3) 2 1		事業計画は、日本社会の外国人労働力のニーズに応える形で、日本語学校としての定員増を実施した。毎年度初めに2年・3年後までの見直しを想定した具体的な事業計画が示されている。
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	4 (3) 2 1		学校運営方針に基づき、各種委員会組織を設置し、定期的な部課長・学科長会議および職員会議を開催し、具体的な活動計画を定め、実行している。
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4 (3) 2 1		就業規則により明確に定められている。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4 (3) 2 1		教務担当の教務部と総務部学務課、財務担当の総務部総務課がそれぞれ整備されている。
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4 (3) 2 1		地域自治会への積極的参加、教育課程編成委員会等を通じて、業界や地域社会へのコンプライアンス体制が整備されている。
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4 (3) 2 1		教育課程編成委員会、学校ホームページや、学生募集活動におけるガイダンスやオープンキャンパスなどを通じて、積極的に教育活動等を外部に対して情報公開している。求められている内容について、可能な限りの手段で積極的に外部への情報公開をしている。
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4 (3) 2 1		学校内情報システムのネットワークが整備されていたが、R6年度より島原校においてもより機能を充実させた新システム(RINGUL)での運用を始めた。定員増加に対して、業務の効率化を図っている。

①課題

学園ホームページのリニューアルと共に、FACEBOOKとリンクした情報発信を実施しているが、まだ、ホームページや外部の閲覧回数が少ない。

②今後の改善方策

新しい情報公開や情報発信のペースが整ったので、全教職員がFACEBOOKの投稿を実践し、リンクしている学園ホームページの広報活動(PR活動)を推進していく。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	3	2	1	本校の教育理念に基づき、日本社会に役立つ人材の育成に向けて、実用的な日本語能力育成を目指して、教育課程の編成と変更が実践されている。
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	3	2	1	2年コース、1.5年コースの各コースに基づいたカリキュラムを編成し、学習内容を精査し、学習時間や目標とする到達レベルを明確化している。
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	3	2	1	2年コースは1600時間、1.5年コースは1200時間の学年暦を策定し、体系的なカリキュラム編成を行っている。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	3	2	1	教育課程編成委員会等を通じて、日本社会のニーズに応えるべく、より実践に近い形で実用的な日本語教育が行われるよう、工夫に努めている。
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。	4	3	2	1	課外活動における病院や介護施設での就業体験を通して、地域と連携した実践的な職業教育の場を提供している。
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	3	2	1	前期と後期の終わりに、すべてのクラスで授業評価アンケートを実施し、アンケート結果を集計し、学校自己評価の評価材料としている。
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	3	2	1	学園における他の専門課程はいずれも職業実践専門課程として認可を受けており、教育課程編成委員会およびその分科会も開き、外部評価を受けている。本校では実践していない。
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	3	2	1	学則および各種規程に基づき、成績評価、単位認定、進級判定、卒業判定の基準は明確にされている。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	4	3	2	1	年2回行われる日本語能力試験(JLPT)に加え、J.TESTも年2回受験する年間計画を策定し、それに基づいた指導体制、カリキュラムを実施し、学生の資格取得に関するチャンスを増やしている。
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	3	2	1	日本語教育主専攻課程、副専攻課程及び養成講座(420時間以上)の履修歴に基づき、適切な資格要件を有し、指導力も優れた教員を確保している。
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。	4	3	2	1	他学科の教員の一部は、関連業界との連携を深め、実践的な知識と技術を維持するように、臨床現場も業務の中に組み込みながら、教育業務とのバランスをとっている。日本語科においては教育実習生や日本語課程を有する大学などを通じて優れた人材の確保を図ることができるように努力している。
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	4	3	2	1	教員が関連の主要な学会や研修会に参加して、研鑽を積み取り組んでいる。また、新任教職員に対して、一般的な組織理解や指導力向上のための研修を実施している。
・職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4	3	2	1	毎年、年3回全職員による教職員研修会を開催している。その他、必要に応じて教職員を選び、適宜外部の研修に参加させている。

①課題

日本語科教員不足で、定員増加に伴う常勤・非常勤講師の確保が必須である。また、学生増に対応するクラス編成、時間割、学年暦などの再作成と調整が必要である。

②今後の改善方針

日本語教師国家資格化に伴う人材確保のため、グループ各校と連携し、求人情報の収集に努める。

③特記事項

特になし。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(4) 学修成果

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・進学率の向上が図られているか。	4	3	2	1	業界の信頼もいただき、他学科の就職率は各学科とも毎年、100%と高い水準が維持されている。日本語科としては、令和6年度卒業生のJLPTN4以上の取得率は88.6%である。大学及び専門学校への進学率は100%である。
・資格取得率の向上が図られているか。	4	3	2	1	日本語能力試験の合格率は、近年40%台での横ばいを推移しているが、ここ3年間の全国平均は44.17%である。今年度はレベル別の講座を増やし、きめ細やかな授業体制で臨んだ結果、特に2年生に関して8割以上の学生がN4以上を取得することができ、好結果を残すことができた。今後についても合格率50%を以上を目指して、より一層指導体制を強化していきたい。
・退学率の低減が図られているか。	4	3	2	1	退学者に関しては、壱岐校の介護福祉科へ飛び級の学生13名、長崎校のキャリアビジネス科、介護福祉科への飛び級4名の計17名を除いて、中途退学者は皆無である。2年生は全員卒業し、1年生は全員進級した。
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	3	2	1	卒業生の業界での活躍の情報を在校生に周知し、学習意欲の向上にある程度役立てている。
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	2	1	介護福祉科への進学者に対しては、同門会組織が充実して、卒業生の体験を聞く機会をもっている。また、外部講師による講習会を実施の際は、卒業生にも広く呼びかけ、キャリア形成の促進に努めている。

①課題

来日年度による留学生の日本語レベル差が大きい。特に今年度は4月生も10月生もかなり厳しい学生が多数を占め、入学時のプレースメントテストにおいては、4月生は得点率30%以下が7割、10月生は8割を占め、予定していた授業進度がなかなか進まず苦慮している。

②今後の改善方策

レベルに応じた細やかな指導ができるような教材や副教材の選定、毎週の小テストの実施、宿題の配布、補講などを行う。また、日本語能力検定試験の目標をN4:50%、N3:30%、N2:10%に設定し、その取組を計画的に推進する。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・進路(就職)に関する支援体制は整備されているか。	4	3	2	1	校内で介護福祉科の説明会を開くなど、在校生の進学(就職)活動を支援している。また、卒業後も学園グループの人材紹介事業会社を通じて就職活動の支援に努めている。
・学生相談に関する体制は整備されているか。	4	3	2	1	クラス担任を通じた相談、学校教育カウンセラーへの相談等、複数の相談窓口を整備し、常時対応している。
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	3	2	1	私立専門学校授業料等軽減補助金(高等教育無償化)機関認定を受けている。また各種奨学金申請及び採用にかかわる手続きの支援を積極的にを行い、並行して経済的状況に応じた校納金分納の相談にも応じている。具体的には長崎県社会福祉協議会の貸付金や、香崎市や五島市からの生活補助金の紹介など、各種支援制度の活用を積極的に進め、学生を支援している。
・学生の健康管理を担う体制はあるか。	4	3	2	1	毎年1回、長崎県健康事業団に依頼して、全学生と教職員の定期的な健康診断を実施している。担任を中心に日々学生の心身の健康観察を行い、衛生管理、検温の励行、病院への学生引率など、迅速に対応している。教職員の休日当番のローテーションも決めており、急な病気にも対応できる体制を作っている。
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	3	2	1	日本文化体験や地域社会との交流を深めるため、長崎県国際交流部会開催の各種交流会、島原市母子会主催の「子ども食堂」、地域の恒例行事「安中夏祭り」、島原市主催の「不知火祭り」でのパレード参加など、年間で、月1~2回ペースでの交流活動を実施してきた。
・学生の生活環境への支援は行われているか。	4	3	2	1	現在、在籍104名のうち、63名の留学生在が、本校校舎2階・3階の学生寮で、令和6年10月からは18名の学生が新たに借り上げた新寮2棟で寮生活を送っている。残りの23名は、アルバイト先の介護施設等に隣接しているアパートに居住し、事業所のバスの送迎や路線バスを利用して通学している。学生寮の老朽化のため、不具合箇所の修理や旧電灯の取替工事などを適宜行っている。
・保護者と適切に連携しているか。	4	3	2	1	インターネット環境のおかげで、必要に応じて、母国の保護者との連絡などをスムーズに行うことができている。学生達も本国との連絡を密に行えるため、精神的にも安定しており、安心して勉学やアルバイトに励むことができている。
・卒業生への支援体制はあるか。	4	3	2	1	卒業後もJLPTのN3、N2の受験にチャレンジをしている卒業生のために、職員が休日や夏休み期間に、ZOOMを利用した遠隔授業を行って、受験のサポートを行ったり、年金関係の書類や役所への各種提出書類の書き方、アパートやアルバイト探しの支援など、卒業後も真摯に対応している。
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	4	3	2	1	長崎の学校は高台中腹にあり、通学に若干負担があるため、働いている社会人が多い夜間部の学生には、校内への車の乗入れを許可制にしている。また、最寄り駅に、迎えのスクールバスを出している。本校に社会人は在籍していない。
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	4	3	2	1	高校の要望に応じて、地域の高校生との意見交換や授業参観、料理体験などの機会をもつ、高校生との異文化交流や生活アンケートなどを実施している。また、夏休みなどを利用した学校説明会も行い、実際の高校生のニーズを把握する機会としても活かしている。

①課題

学校と寮での安心・安全な生活を送るために、施設・設備の充実や、学生一人一人の日々の自主的な清掃習慣をしっかりと確立させる必要がある。

②今後の改善方策

学生の日々の生活が充実することで、結果として、学習意欲を向上させることにつなげたい。また、アルバイトの支援や相談にも教員側で丁寧に対応していく。年2回の定期的なハウスクリーニングの実施、学生による学校と寮の日々の清掃当番制の確立と教員側でのチェック体制の確立を図る。また、地域住民との交流のため、地域行事への参加に加え、季節ごとのイベントを実施する。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(6) 教育環境

評価項目	適切: 4, ほぼ適切: 3, やや不適切: 2, 不適切: 1	
<p>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。</p>	<p>4 ③ 2 1</p>	<p>教室は学生の定員増員に対応できるように改築工事を実施し、冷暖房設備や電灯、プロジェクターやホワイトボード、机・椅子などを新しく購入し整備している。建物自体は築約50年で施設の老朽化による電気器具の不具合など教育上・生活上の支障がないように、その都度修理して対処している。</p>
<p>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。</p>	<p>4 3 2 1</p>	<p>学園では、卒業後の鍼灸整骨院などの実習施設や介護施設での就労を希望している学生のために、インターンシップを実施している。また、介護施設などでのアルバイトを紹介して、現場での介護を実体験する機会を確保している。</p>
<p>・防災に対する体制は整備されているか。</p>	<p>④ 3 2 1</p>	<p>防災訓練は最低年1回は校内で実施している。また、学生及び職員も地域の防災避難訓練に参加し、日頃から防災無線を受信し、学校全体で防災意識を高めるよう努めている。</p>

①課題

留学生は、総じて防災意識が低い。

②今後の改善方策

島原市が約30年前に経験した雲仙岳噴火災害の記録映像を上映し、学生たちに防災意識を持たせ、地域住民の方々と一緒に、AEDなどの救急救命実習にも参加させている。設備の老朽化による修繕を要する部分に関して、安全・衛生面を優先し、少しずつ補修、改善していく。また、新入生が入る度に、継続して防災に関するガイダンスを実施する。

③特記事項

特になし。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切: 4, ほぼ適切: 3, やや不適切: 2, 不適切: 1				
・学生募集活動は、適正に行われているか。	4	3	2	1	入管の基準に基づいて、学生募集は適正に行われている。
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4	3	2	1	学生募集活動において、卒業生の進学率、資格試験の合格率、退学率など、ホームページなどで広く公表している。また、学校自己評価の結果もホームページにて公表している。
・学納金は妥当なものとなっているか。	4	3	2	1	本校の学納金は、同分野の他の学校の平均的な水準と同等である。

①課題

来年度以降も含め、定員数の増加に伴う事務担当者や常勤・非常勤講師の確保と学生寮の不足が懸念される。

②今後の改善方策

定員増に伴う教育環境の整備は整ったが、新学生寮(令和6年10月から)が道路拡張工事による取り壊し予定のため、3年契約になっており、2年半後を見据えた早めの物件探しなどの対応を行っていく必要がある。

③特記事項

特になし。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(8) 財務

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1		
・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4 (3) 2 1	1	少子高齢化の中、入学者数の確保のため学科等の教育内容の刷新を行うとともに、経費の圧縮等で財務基盤の安定化を図っている。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	(4) 3 2 1	1	予算作成に際して、理事長査定を実施し、適切な予算管理を行っている。
・財務について会計監査が適性に行われているか。	(4) 3 2 1	1	適時、内部監査を実施している。
・財務情報公開の体制整備はできているか。	4 (3) 2 1	1	HPでの情報公開等しっかりと対応できている。

①課題

現在、在籍している学生に関しては、校納金や寮費等の滞納もない。事務担当者を中心に今後とも計画的な回収を図る。

②今後の改善方策

今後とも継続して、ホームページなどで、本校の魅力を広く知らしめ、定員に見合う留学生を確保する。学園全体としては、募集事業だけではなくグループ内の付帯事業を担当する。

③特記事項

特になし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・法令, 専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4	3	2	1	学校教育法、養成施設指定規則等の法令に従った適正な運営がなされており、申請書、届出書、学校運営に係る記録等は確実に保管されている。国や県の監督部署の指導調査で指摘された事項は改善されている。
・個人情報に関し, その保護のための対策がとられているか。	4	3	2	1	学生個人調書等の個人記録は施錠できるキャビネットに保管して部外者のアクセスを防止すると共に、情報の持ち出しを禁じている。全職員を通じて、個人情報管理意識の向上に努めている。
・自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。	4	3	2	1	学校自己評価委員会の下、各項目に対して、自己評価を実施し、それぞれの問題点は具体的に把握し、新委員会による横断的な点検と改善も併せて推進している。
・自己評価結果を公開しているか。	4	3	2	1	自己評価結果は学校ホームページ上で公開している。

①課題

個人情報等の保護について、デジタル保管も含め、再考の余地がある。

②今後の改善方策

帳票保管からデジタルでの個人情報等のバックアップを行い、保管するように努めていく。情報の管理、破棄についても担当者を専任する。

③特記事項

特になし。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1	
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4 3 2 1	外部講師の講習会等で学校の教育設備を利用していたり、学生の地域ボランティア活動や、学校設備の地域自治会への利用、災害予防のための一時避難場所等の提供を行っている。
・地域でのボランティア活動や行事に積極的に参加しているか。	4 3 2 1	地域清掃や子ども食堂への参加など、島原市民として積極的に、ボランティア活動に参加している。地域住民の方々との交流を心がけ、ボランティア活動や祭りへの参加依頼なども多く寄せられている。学校を通じたボランティア募集による活動は、必ず教員も引率を行い、一緒に参加している。
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。	4 3 2 1	学園の他学科では、職業訓練校からの委託を受けて受講者の教育を積極的に実施している。健康講座など一般向け講座も独自に企画し地域の自治会で開催しており、成果は参加者アンケートを取り、評価されている。受託事業の管理と報告は適性になされている。また、本校においては、外部の依頼に応じて授業参観や教育実習を受け入れている。

①課題

地域行事や地域ボランティアに参加する機会が多くなり、休日出勤をする教員の負担が大きい。また、休日にアルバイトがある学生達の参加が制限されることがある。

②今後の改善方策

なるべくたくさんの学生達が地域活動に参加できるように地域との連携を深めると共に、アルバイトとの調整を早め早めに行う。また、休日出勤教員の代休措置を講じる。

③特記事項

特になし。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(11) 国際交流

評価項目	適切: 4, ほぼ適切: 3, やや不適切: 2, 不適切: 1				
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか。	4	3	2	1	日本語科では外国人留学生の資格取得が可能なため、社会のニーズに応じて、学園として留学生の受入れを積極的に行っている。本校においても本年度は学生数が24名増加となった。
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	4	3	2	1	外国人留学生の受入れに関し、専門の職員を配し、現地での慎重な審査を行ったうえで適切な入国管理手続きを行っている。在校生については日々の記録を整備し、適切な在籍管理を行っている。
・留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4	3	2	1	日本語科として、担任教員による留学生の学習・生活指導のガイダンスを実施し、全校をあげての組織的な取り組みを行っている。また、寮の掃除当番などを決め、毎日掃除チェックを実施している。
・学習成果が国内外で評価される取組を取っているか。	4	3	2	1	海外向けサイトの登録の他、適宜、情報を配信している。

①課題

令和6年度の在籍学生は約8割がネパール出身であったため、授業以外で日本語を使う機会が少なく、他の留学生との国際交流の機会がなかった。

②今後の改善方策

今年度は、定員増に伴い、4月生と10月生が入学してきた。新たにミャンマーからの学生が入学し、日常生活においても学生同士の日常会話では、日本語を使わなければならない機会が増えた。教室内では日本語を使わないルールを徹底し、日本語力の向上につなげていきたい。また、互いの国の文化交流の機会も増やしていきたい。島原市には、民間の国際交流協会があり、長崎市と連携した取組みがなされている。今後とも継続して学生の参加を促していく。

③特記事項

特になし。